

Codex 委員会（Codex Alimentarius Commission : CAC または Codex）

Codex 委員会は、消費者の健康の保護と公正な食品貿易の確保を主な目的として、FAO と WHO によって FAO/WHO 合同食品規格計画を実現するために設立された政府間機関である。第一回総会は 1963 年に開催され、2025 年末までに 48 回開催された。現在は年 1 回開催される。Codex Alimentarius とは、ラテン語で「食品法典」を意味し、採択された食品規格・規範・ガイドライン等の勧告を掲載する文書のことを指す。WTO の SPS 協定は、唯一 Codex を「食品安全における国際規格基準の設定機関」と明示している。FAO または WHO の加盟国または準加盟国が Codex に加盟できる。また国際政府間機関や国際非政府機関は、FAO または WHO の事務局長が承認すれば、オブザーバーとして Codex の会議に参加できる。2025 年 11 月現在、188 か国と欧州連合が加盟しており、58 の国際政府間機関と 169 の国際非政府機関、さらには 16 の国連関係機関がオブザーバーとなっている。

最高執行機関として総会、それを支援する執行委員会(総会の議長、副議長 2 人、7 つの地域の代表及び 6 人の地域調整部会議長からなる)、6 つの地域調整部会（日本はアジア地域調整部会のメンバー）、10 の水平横断的検討を行う一般問題部会、12 の個別食品部会（うち 6 つは休会中）がある。必要に応じて特定の問題について勧告を検討するタスクフォースが設置され、作業が終了すれば解散する。総会と執行委員会は FAO と WHO で運営するが、他の部会についてはホスト国が運営する。主にホスト国で毎年、または 2 年に一度開催されるが、第 3 国で開催されることもある。事務局はイタリア・ローマにある FAO 本部にある。公用語は英語、フランス語及びスペイン語である。

規格・基準、規範、ガイドライン等は、総会や部会において、Procedural Manual に記載されている規準に照らして加盟国が提案し、総会または執行委員会が承認すれば作成が開始される。8 つのステップ、反対がなければ 5 つのステップ、を経て総会の承認後に Codex の勧告となる。これらの勧告の検討手順や、Codex で使用される用語の定義、Codex のルール等は、食品安全に関わる部会が検討の基礎とする リスク分析の作業原則などとともに、Codex の Website から入手可能な Procedural Manual に記載されている。

食品安全を食品全体について横断的に検討する食品衛生、食品添加物、汚染物質（天然毒素を含む）、残留農薬、残留動物用医薬品部会がある。一般問題、分析サンプリング法、輸出入検査認証、栄養特種用途食品に関する部会は食品安全に関連する事項も検討することがある。

Codex の勧告及び総会や部会の予定や作業文書、報告書等詳細な情報は、以下の URL からダウンロードできる。

<https://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius>

（山田 友紀子）